

## 南ドイツ・オーストリア・チェコの旅①

萩原 卓

今回は、久しぶりに訪れた中欧の旅の便りです。ビジネスでは行ったことがあるものの、ホテル周辺の散策を楽しむ程度でしたが、今回はそれぞれの街の魅力を発見することができました。定年後の良いアニバーサリー旅行となりました。3回に分けて紹介させていただきます。

(日程)

- 9月 9日 羽田 → ミュンヘン 泊
- 10日 ミュンヘン⇒ホーエンシュバンガウ「ヴィースの巡礼教会」  
ノイシュバンシュタイン城⇒ザルツブルグ 泊
- 11日 ザルツブルグ市内散策、⇒ ウィーン 泊
- 12日 ウィーン市内散策 シェーンブルン宮殿等 ウィーン泊
- 13日 ウィーン⇒チェスキー・クルムロフ 市内散策⇒プラハ 泊
- 14日 プラハ市内散策 泊
- 15日 プラハ⇒ブルゼニュ 市内散策 ⇒ミュンヘン
- 16日 ミュンヘン → 羽田

9月 9日

羽田からの国際便が増えたのは歓迎だ。  
昼過ぎのANA便で一路ミュンヘンへ。  
ヨーロッパは大体夕刻に着くので、その日  
ホテルに直行できる。

早速、近くのスーパーでドイツビールを  
いただく。今回の旅の楽しみのひとつは、  
それぞれの国で美味しいビールが味わえ  
ることだ。



このあたりの代表格は「ヴァイツェン」。  
小麦麦芽を50%以上混ぜ特殊酵母で発酵  
させる。クローブやバナナに似た香りが特徴  
だ。

日没は午後7時頃だったと思う。空港到着直  
後は小雨だったが、ホテルから見る夕日は印  
象的だった。明日から晴れてくれればいいの  
だが。

9月10日

今日は、ホーエンシュバンガウへ向かう。

途中立ち寄るのが、世界遺産「ヴィースの巡礼教会」、山の方へ向かってバスが進んでいくにつれ、霧が立ち込めてきた。このあたりはかなり高地にあるようだ。小雨が降っていたせいも、気温7℃。思っていたより相当寒い。



外観からは、特に目立った印象を受けないこの教会、中に入ってみると、豪華で優美な室内装飾に驚く。バロック様式の延長線上にあるロココ様式だ。

教会の内陣には、聖歌隊席があり、ここは寄木細工の聖体拝領台で、教会内で最も聖なる場所とされる。



中央祭壇には、「鞭打たれる救い主」が安置されている。この恵みの像がヴィース教会の中心であり、巡礼の起源とされる。

天井を見上げると、フレスコ画が拡がり、中心には復活したキリストが虹の王座についている。そして向かい側には永遠の門が立っている。

また、この教会は、「ヴィースの奇跡」で有名だ。1738年6月14日の夕拝中に、そしてその翌日も木彫りのキリスト像が涙を流したとされ、礼拝堂が建てられる。以降ヴィース巡礼が非常に勢いで広まることになる。

1745年にドイツの建築家ドミニクス・ツィンマーマンによって改築が始まり、現在のロココ様式の教会が出来上がった。





このあと、ホーエンシュバンガウに着くと、山の上のノイシュバンシュタイン城が見える。ルートヴィッヒ2世が生涯をかけて築城したもので、夢とロマンが凝縮された城だ。城までは専用バスで移動する。途中観光客を乗せた馬車に何回か出会う。



カリフォルニア州アナハイムにあるディズニーランドの眠れる森の美女の城はこの城がモデルとされる。「おとぎ話に出てくるような美しさ」とガイドブックなどには書いてあるが、あいにくの天候のせいもあり、何とか城内を見学した後、展望広場で全体を写真に収めた。

9月11日



今日は、世界遺産「ザルツブルグの歴史地区」を散策する。

この街はオーストリア北西部のドイツとの国境近くの山間部にある。

ザルツは「塩」、ブルクは「砦」の意味で、紀元前から岩塩の採掘と交易によって栄えた宗教都市である。

まず、映画「サウンド・オブ・ミュージック」の「ドレミの歌」の舞台となったミラベル庭園を訪れる。昔みた家庭教師のマリア役、ジュリー・アンドリュースが懐かしく思い出される。庭園にはバラのトンネルもあり、春には花で埋め尽くされるとのこと。

続いて、モーツァルトの生家や旧市街、レジデンス広場、大聖堂を巡る。丘の上からは、街が一望できオーエンザルツブルグ城も遠方に眺めることができた。

旧市街のゲトライデカッセ通りの脇には、いくつもの細い通路があり、うっかりすると迷ってしまいそうだが、カフェレストランや土産店も立ち並び、多くの観光客でにぎわっていた。



中世以来のギルドの伝統を受け継ぐ様々な形をした鋳鉄製の看板もたくさん並んでいる。見ているだけでも楽しい。古い街並みと鉄細工の看板にこの街の雰囲気を感じる。



ちょうどカフェ「モーツァルト」が目の前に現れたので少し休憩しよう。ピルスナービールが疲れを癒してくれる。

続いて、ザルツブルグ大聖堂へと向かう。ヨーロッパ有数の美しさを誇る教会と言われ、8世紀に建造された。12世紀にはロマネスク様式に改築され、17世紀にはイタリアの建築家によって、現在のバロック様式の姿に立て直された。長い激動の歴史を持つこの聖堂で、モーツァルトは洗礼を受け、後に聖堂のオルガン奏者を務めた。

音楽の都として知られるザルツブルグは、夏の音楽祭やモーツァルトを記念して開催されるフェスティバルには多くの人を訪れる。

